

第7回愛媛県なわとび選手権大会 競技規定

☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人部門1人3種目、団体部門1人3種目までとする。
- 3 団体部門で、違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。
(例) 小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は、中学年の部に出場することになる。
- 4 健康状態については、保護者が責任をもつこと。傷害保険料を越える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 5 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局にメールで届け出る。
(やむを得ない場合は当日も可)
- 6 規定にない事態が発生したときは、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。
- 7 参加者は県内在住者のみとする。

☆ カテゴリー

個人部門：未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門、
一般部門（10～20代、30代、40代、50代）、シニア部門（60歳以上）
※中高生・一般・シニア部門のカテゴリーは男女別とする。

団体部門：未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生部門、一般部門
シニア部門（60歳以上）

☆ 競技種目

【個人部門】※1人3種目まで（親子とびを除く）

小学生：あやとび、交差とび、二重とび、あや二重とび、交差二重とび、三重とび、親子とび

中高生：二重とび、あや二重とび、三重とび

一般、シニア：二重とび、三重とび、時間とび（5分）

【団体部門】※1人3種目まで

小学生：8の字ジャンプ1分・3分、みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

中高生、一般、シニア：みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

☆ 表彰規定

【個人部門】

- ・ 参加者全員に記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー上位6位までには後日、賞状を郵送する。

(個人部門カテゴリー)

未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門、
一般部門（10～20代、30代、40代、50代）、シニア部門（60歳以上）

※中高生・一般・シニア部門のカテゴリーは男女別とする。

【団体部門】

○ オフライン部門（大会会場での審査）

- ・ 参加チームには、参加者数分の参加記念シールを当日授与する。
- ・ 参加チームには、記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー、各種目上位3チームには、参加者数分の賞状を郵送する。

○ オンライン部門（ビデオ審査）

- ・ 参加チームには、参加者数分の参加記念シールを郵送する。

（※オフライン部門・オンライン部門の両部門に参加するチームは会場で授与したシールのみとする）

- ・ 参加チームには、記録証を郵送する。
- ・ 各カテゴリー各種目上位3チームには、参加者数分の賞状を郵送する。

☆ 競技規定

※ 本大会のルールは第7回愛媛県なわとび選手権大会ローカルルールである。正式な競技のルールとは違う部分もある。

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

【個人部門】

☆ あやとび・交差とび（一回旋技）、二重とび・あや二重とび・交差二重とび（二回旋技）
三重とび（三回旋技）

- 1 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測し、あやとび・あや二重とびについては手がクロスした回数を数える。
- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その跳躍は記録に入れるが、そうでない場合は、最後の跳躍は記録に入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた場合は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

☆親子とび

- 1 保護者が短縄を回し、2人同時に跳ぶ。
- 2 1分間に跳んだ合計跳躍回数を競う。途中で引っかかっても、時間内であれば続けて跳ぶことができる。
- 3 1回旋1跳躍でも1回旋2跳躍でもよいがどちらも1回として計測する。
- 4 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。

☆時間とび（5分） ※一般、シニア部門のみ

- 1 スタートの合図があり、10秒経過までに引っかかった場合は、やり直して跳び続けてもよい。ただし、それ以後は認めない。
- 2 記録は、ロープが足に引っかかったりして、選手が跳ぶのをやめたときに終了する。
- 3 跳び方は、前方一回旋一跳躍とする。1回ロープを回す間に、足は1回つくことができる。2回以上ついた場合は、失格とする。また、ロープをゆっくり回し、1秒以上着地している場合も、失格とする。
- 4 跳躍継続時間が記録となる。（例）4分32秒など
- 5 跳んでいる途中で、他人の手を借りてはならない。
- 6 5分を上限とし、跳び切った選手は「完跳賞」を授与する。

【団体部門】

※ 動画審査によるオンライン部門と会場で行うオフライン部門を行う。

☆8の字ジャンプ（1分間・3分間）

- 1 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの合計跳躍回数とする。何回ロープが引っかかって競技は続けられる。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 1人1回ずつ跳び、跳んで抜けた後、次の人が跳ぶ。2人が同時に跳ぶことはできない。
- 4 最後にロープが引っかかったときは、その人数は数えない。
- 5 時間内に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかって競技は続けられる。
- 6 選手は、3名以上とする。ロープの回し手（ターナー）2人を除く。上限はない。
- 7 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 8 ロープの長さは、自由とする。

☆ダブルダッチシングルス（1分）

- 1 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図があったときに跳んだ回数とする。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 最後にロープが引っかかったときは、その回数は数えない。
- 4 1分間の間に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかって競技は続けられる。
- 5 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。
- 6 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 7 ロープの長さは、自由とする。

☆みんなでジャンプ（1分）

- 1 競技時間は1分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。
- 2 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの最大跳躍回数を基にしたポイント制とする。
- 3 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。
(ポイント計算例)
 - ・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・3人×200回=600ポイント
 - ・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・15人×60回=900ポイント
 - ・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・30人×20回=600ポイント
- 4 「はじめ」の合図があり、跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や跳ぶのをやめたときが終了となる。
- 5 選手は3人以上とする。ロープの回し手（ターナー）2人を除く。上限はない。
- 6 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。